

様式第1号

会 議 録

会議の名称		令和3年度第2回自転車のまちつくば推進委員会		
開催日時		令和4年(2022年)3月16日 開会 10:00 閉会 14:00		
開催場所		つくば市役所 本庁舎2階 会議室 204		
事務局(担当課)		都市計画部総合交通政策課サイクルコミュニティ推進室		
出席者	委員	池田委員、井上委員、岩切委員、篠委員、竹前委員、丹委員、藤澤委員、松橋委員、渡委員、永田委員、松井委員、松島委員、小室委員、野澤委員、中根委員、富田委員、谷内委員		
	その他	—		
	事務局	高橋室長、藤代主任、古関主任		
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	0名
非公開の場合はその理由				
議題		<ul style="list-style-type: none"> <li>・(仮称)つくば市自転車活用推進計画策定期間の変更について</li> <li>・サイクルコミュニティの目標について</li> </ul>		
会議録署名人		—	確定年月日	令和 年 月 日
会議次第	1	開 会		
	2	市長挨拶		
	3	委員長挨拶		
	4	議 事		
		(1) (仮称)つくば市自転車活用推進計画策定期間の変更について		
		(2) サイクルコミュニティの目標について		
	5	そ の 他		
	6	閉 会		
<p>&lt;市長挨拶&gt;</p> <p>つくば市では、2月14日にゼロカーボンシティ宣言を行った。ゼロカーボンシティ宣言とは、2050年までに二酸化炭素の排出量を実質0にするというもので、自転車もその取り組みの一助となると考えているので、より一層市民の自転車利用を盛り上げていきたい。</p> <p>前回の委員会では令和4年度に(仮称)つくば市自転車活用推進計画を策定する予定とお伝えしたが、いかにも行政が机の上で作った計画を策定しても、策定しただけで終わってしまうという問題意識から、じっくり時間をかけて計画を策定することとした。今回の委員会では初めて自転車での実走を取り入れてい</p>				

## 様式第1号

るが、今後も机上だけではなく、継続的に委員と一緒に市内を自転車で走りたいと考えている。また、今回は委員を中心に実走するが、今後はサイクルコミュニティの形成に資するような形で、実走のメンバーを広げていきたいと思っている。本日、私も自転車実走に参加するつもりだったが、様々な制約の中で参加することができなくなってしまった。ぜひ次回以降は委員と一緒に実走したいと考えている。

今回設定した2コースは、どちらも基本的には舗装されているロードバイク向けのコースとなっている。御存じの方もいると思うが、3年ほど前からグラベルという舗装されていない砂利道のようなコースを走ることが広まってきている。グラベルはマウンテンバイクとロードバイクの中間とだけ思えばよい。私の場合、ロードバイクは自宅のスマートトレーナー専用にしていて、普段はグラベルに乗っている。行政目線で言うと、グラベルは道路を舗装しなくても成立するという見方も可能。今ある未舗装路がむしろ楽しい道になっていくという発想である。ロードバイクに乗っている方は段差や小石が嫌で避けながら走っていると思う。グラベル、マウンテンバイクの場合は積極的に小石を踏みに行き、小さな段差があっても楽しい上、ロードバイクでは走らないような道を走ることができる。次回以降、様々なコースを走的过程中で、自転車の概念を舗装路に限定せず、どのような形で自転車を普及していくことができるか考えていきたい。

このような考え方に至った経緯として、サイクルコミュニティ推進室が市内の企業や研究機関に自転車通勤を増やすためにどうしたらよいかヒアリングを行ってきたところ、あまり前向きな回答が得られなかったことがある。従事者に自転車通勤を進めるには安全が担保できない、まずは道を舗装していただきたい等の意見が多く、まだ自転車に対して肯定的な人ばかりではないことを客観視させられた。我々がいくら自転車施策を進めても、このままではうまくいかない。発想の転換も含めて検討していかないと厳しい状況であると考えている。

つくば市が行っている施策として、昨年10月、シェアサイクルを導入した。すでにシェアサイクルを導入しているほかの自治体へ聞き取りを行ったところ、電動アシスト付自転車を導入した自治体ではバッテリー切れでトラブルが発生しているとのことだったので、シリコンの反発を使って軽快感を得られる Root One という自転車を導入した。「つくチャリ」という愛称は市民からの公募によって決定した。現在の利用者数は、当初の想定を大幅に上回っている。

また、筑波東中学校跡地は、本日は行く方もいらっしゃるが、弱虫ペダルサイクリングチームと連携し、つくば霞ヶ浦りんりんロードに連なる形で自転車拠点として利活用する。校庭には BMX レーシングコースを整備し、自転車とジオパークを合わせた拠点にしていく。この計画は、昨年、スポーツ庁の長官表彰をい

## 様式第1号

ただいた。

昨年12月には、シクロクロスの全日本選手権に出場した。とても過酷なレースだった。このままでは終われないと思ったので、今年は準備をして、本気で出る。毎日自宅でZwiftを使って追い込んでいる。ぜひそう言った意味でも自転車の可能性を広げながら、何が本当の意味でサイクルコミュニティ形成に資するか考えながら、イベント開催も含めて進めていきたい。市民に自転車がじわじわ定着していくような取り組みを広げていきたい。まさに自転車のまちつくば推進委員会が皆様との意見交換の場であり、大切にしていきたい。

本日も議題となっているが、周辺市街地とのつながりをどのように作っていくかということも重要であると考えている。それぞれの周辺市街地をつなぐ大きなツールになりうると考えている。私も次回は一緒に実走したいと考えている。ぜひ率直な意見をいただいて、自転車施策を進めていきたいと思うので、委員長をはじめよろしくお願ひしたい。

### <委員長挨拶>

先ほど、舗装していない桜川の堤防を走りたいという話を市長としていたが、市長は既にやっているということで最先端であると感じた。

先ほど市長からも話があったとおり、企業の方は、自転車が仕事のクリエイティビティを上げる要素となりうるという認識があまりない様子である。私がアメリカで働いていた時、グーグル社やアップル社は自転車通勤している人がたくさんいた。グーグル社の場合は会社の周りに自転車が1,000台程度設置されており、平日も社員が自転車を使って散策していた。

日本にもつくば市の隣の下妻市に外資系の企業の研究所があるが、そこは小貝川の堤防のそばに位置しており、堤防から筑波山が見えて、川の景観が良い。そこを社員が自転車で走る、レクリエーションを想定しているのではないかと。

市民が自転車で走りたいという動機づけとして、小さな感動が得られる巡り場が必要になってくると考える。職場や家から周辺に行くという中距離、または若干の長距離の移動では、自転車はとてもいい道具である。つくば市もスーパーシティにほぼ内定されたということで、今後様々なモビリティの実験等が計画されると思うが、その中でも人力でのモビリティとしては継続性がある道具であると考えており、そのような道具を使うことにおいて、本日の実走の可能性を感じている。サイクリングの途中、いくつかの巡り場を想定しているが、その後自分でサイクリングをする際は自身で選択することもできる。そのためにも本日の実走では、自分なりの巡り場を探しながらサイクリングしてほしいと考える。自分なりの眺めがよいところ、休む・休み場的なところ、休むには日影が欲しいと思えば日影場、あるいは食事ができるとか、食事はカフェやパン屋で買っ

## 様式第1号

てもよいし、地元で購入してもよい。食事をする場所をダジャレで食場と言っているが、もしかしたら小さなパソコンを持って行って仕事もできるかもしれない。そういう意味では職場。いろいろなところが巡り場となっていく。そのようなところを探す目線でも走っていただきたい。ただ道路を走るだけではなく、周辺を見渡して寄り道的な発想でよいところを探していただきたい。先ほど言った走りたくなる、感動する日常のルートを発見できるような1つの実験、ワークショップになると考える。ぜひ今日の実走を楽しんでいただきたい。次回からは市長もよろしくお願ひしたい。

<審議内容>○：委員 ●：事務局

・ (1) (仮称) つくば市自転車活用推進計画策定時期の変更について

●事務局：(仮称)つくば市自転車活用推進計画策定時期の変更について説明

<休憩>

<審議内容>○：委員 ●：事務局

・ (2) サイクルコミュニティの目標について

●事務局：サイクルコミュニティの目標について説明

○委員：今日が休日の1日であれば、ゆっくりサイクリングをすることができ楽しかった。保護者の立場としては、毎日子供が走ることを考えた場合、道がたがたして危ない、自転車は車道と歩道のどこを走れば安全なのかわかりづらいところもあると感じた。また、歩道がない道も夜は暗くなると感じた。今後の施策の方向性を決めないと議論が発散してしまうと感じた。

○委員：今日、皆さんと走ることができて楽しかった。普段ロードバイクで市内を走っていた時には感じなかったが、本日実走して、夜は暗くなるだろうと思った。また、本日実走したルートはつくば市に住んでいながら、私自身行ったことがないエリアだったので、事前に地図を確認していてよかった。今日のコースは自分でも自転車店の顧客と行けたら楽しいと思った。今日の公園もよかったし、委員長に紹介していただいたカフェにも行っていろいろ探索してみたいと思った。

○委員：普段は、県道や国道を作ったり管理をしたりしている。個人的にも普段、ランニングをしておりそのような目線でも見ていると、路面に樹木の根上りがあり走りづらいところもあると感じたが、全部をメンテナンスするのはなかなか難しい。ある程度許容してもらう道路もあると思いながら走った。学園都市内のボラード(車よけ、車が歩道に入らないようにするための棒)が邪魔であるという一般の方からの投稿があったことで、昨年7月にNHKの取材を受けたことがある。私の立場からすると車が行かないように歩行者を守る意味で設置しているが、今日実際に走ってみて、邪魔であると感じる部分もあった。少しずつ見直しもしていきたいと感じた。

○委員：たまにロードバイクに乗っているが、路肩の広いところであれば安全に走れると感じている。市内であれば西大通、国道354号線から南側このくらいの広さがあれば安全に走ることができると感じている。今日実走したルートでは路肩、L字側溝と段差ができているところ等は暗くて転んでしまった場合、車にひかれてしまう怖さを感じている。道路の構造の問題になってしまって難しいとは思いますが、本気になって直すことができるのであれば、安全に楽しく走ることができる市内になると感じる。また、子供たちが学校に通うために問題になっているのは、自転車でバス停まで行く場合、バス停の近くに駐輪場ないことである。これを改善できるとなおよい。本日は、実走の途中で委員長から説明いただき、市内にいなながらも気づけなかったお店を沢山知ることができたので、サイクリングの楽しさを改めて感じた。

○委員：普段は自転車に乗っていないが、本日自転車で実走して、自転車に乗っている人は視野が狭いと感じた。車を運転していて自転車が飛び出してきた経験があり、危ないと思っていたが、今日は自分が危ない側に回っていたのかなと思った。行く機会がないところに行くことができ、自転車の面白さを改めて感じた。

○委員：久々に自転車に乗り、大変爽快な気分を味わうことができた。非常に楽しいひと時だった。コロナ禍において家の中で過ごす時間が多いが、外に出て日の光を浴び、風を感じる大切さを改めて痛感した。

○委員：反町の公園で当店の放置自転車があったので早速調査中。道中、女性のスカートが車輪に巻き込んでしまっている場面に遭遇した。今後の委員会では様々な意見を踏まえながら計画策定を進めていきたい。

○委員：普段、ロードバイクに乗っているが、仕事としては自転車通行空間として道路の作り方の研究をしている。過去には北海道でサイクルツーリズムの仕事をしていた。ツーリズムという観点でいうと、本日はつくば市の主に東側を走ったが、あまり土地勘がなく、とても勉強になった。委員長から説明いただいて、今までにない新しい体験できてよかったと感じた。今回は先導していただいて迷わず走ることができたが、土地勘がなかったため、今後1人で走る場合や土地勘がない人が走る場合、道がわかりづらいと感じた。他の自治体で行った取り組みとしては道案内の看板を設置する、ルートを記載した地図等を出発点となる駅等で案内した。

○委員：つくば市内を走ったのは初めてだった。意外と裏の道をつないで自転車を楽しむことができるルートが多く、ロードバイクで走るというよりは、市内に住んでいる人が近所でサイクリングするためにも使うことができる道だと感じた。おそらく自転車に乗りなれている方は市内のルートを通らないと思う。不動峠に向かうにつれてつくば霞ヶ浦りんりんロードを通過して峠道を走るルートは走りやすかった。

○委員：裏道を有効活用できるといいと思ったが、表通りのいいところは、青い矢印が書いてあって、自転車が走ってもよいということがわかる、左側通行であることがわかるという点でよいと思う。普段、朝晩に散歩をしていると、右側通行している自転車のほうが多いと感じる。青い矢印も大きい道路だけではなく細い道にもつけていただけるとわかりやすいと思う。また、つくば霞ヶ浦りんりんロードや不動峠が整備されてとてもありがたい。本日実走して、道路わきにごみが散乱しているところがあった。山奥のきれいなところほどごみが多く感じる。これは自転車の問題ではないかもしれないが、自転車に乗っていて気になった。冒頭、グラベルの話が出たが、自転車をもっと楽しく乗るという点でタンデムの自転車に乗れるよう

にしていだきたい。2人乗りになってしまうので普通は乗ることができないが、条例で区域を指定して乗ることができるようにすることができると考える。魅力が高まると思う。

○委員：不動峠まで走ってみて、市街地と旧筑波地区、旧大穂地区では趣の変化を感じた。自転車は軽車両ということで、矢羽根がある東大通、西大通を走ることになるが、接触事故のリスクがあると感じた。相互理解が進むような取り組みが必要。北部に行くと道は狭くなるが、交通量がなくなるのでむしろ裏道のほうが走りやすく安全であると感じた。

○委員：ちらしを配布させていただいたが、月1回程度サイクリングツアーを開催している。よかったらご参加いただきたい。私たちは、通常、初心者向けに幹線道路は走らない原則のもとツアーを開催している。本日は市街地のコースをロードバイクで走ったが、歩道と車道が混在していると走りづらいと感じた。

○委員：道路のここを直してほしいと思いながら走っていてもどこにいえばいいのかわからない。目安箱みたいなものがあって、ここに穴があって危ないので直してほしいということを受け付けてくれる窓口が欲しい。そのような取り組みもしていけたらよい。つくば市は自転車の街なので頑張っていだきたい。

○委員：普段はエンジンがついているバイクに乗っているが、本日はスローな感じで走らせていただいた。自転車で走るときはマスクを外していたので、人間が忘れかけていたような五感を改めて感じた。今の時期だと梅の香り、季節が変われば田んぼの土の香り、鳥の声などなかなかいいものであると感じた。ゆっくり走ることで、お店などを見つけることができ、改めてバイクとは違う面を感じ、心がフレッシュした。季節の移り替わりを楽しむのもよいと思った。本日は渡先生にお店を紹介していただきながら実走したが、普段、都市計画部で許認可を行っている立場でも、いろいろ感じる部分はあった。松井委員からもあったが、運転免許を持っているので、キープレフトについて理解しているが、人とすれ違う時、少し危険であると感じることもあった。これらのルールを広く周知するもの課題であると感じた。

## 様式第1号

○委員：楽しい時間を過ごすことができた。普段は車で通っているが、自転車でゆっくり通ることによって今まで見えていなかった風景がよく見えてきた。私は普段、市道を担当している。永田委員からもあったが、道路のことについてお気づきの点があれば、国・県道問わず道路管理課、道路計画課にお問い合わせいただきたい。先ほど歩道を走っていると車止めが通行に支障になるのかなというところはあったが、自転車通行帯、路面標示があるところは安心して走れる感じがした。道路の苦情を受ける立場でもあるので、今回自転車で実走することで、確認することができてよかった。

・ その他

●事務局：次回の委員会は6月頃を予定。詳細は決まり次第連絡する。

以上